

年度 2008	学期 前期	曜日・校時 月曜日7校時	必修選択 必修	単位数 2
授業科目(英語名)	教養セミナー (First-Year Seminar)			
対象年次(標準履修年次)	1年次	講義形態 講義	教室	(別指示)
対象学生(クラス等)	新入生全員		科目分類	共通基礎科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー				
内田 滋 ・ 小野 哲 ・ 式見 拓仙 ・ 杉原 敏夫				
担当教員(オムニバス科目等)				
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: 知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p> <p>授業方法: 1 クラス 15 名程度で構成し、原則として 1 名の教員が前期を通じて担当する</p> <p>授業到達目標: ① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートや口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を知る。</p>				
<p>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として1名の教員が前期を通じて担当、指導する。</li> <li>2. 単位は 15 週(30 時間)で 2 単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的で双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。</li> <li>3. 教養セミナーのテーマは、大学教育へのオリエンテーション機能を持つこと、学生が複数の学部生の混成であることなどを考慮し、学生との話し合いを重視する。</li> </ol>				
キーワード				
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。			
成績評価の方法・基準等	<p>教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッション(教養セミナーに対する積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。</p> <p>(詳細は授業開始時に各担当教員から提示する。)</p>			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ / 学習・教育目標				
備考(準備学習等)				

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 火 7	必修選択	必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーション I English Communication I			
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室 メディアステーション		
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目(英語)			
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 吉村 宗司 / E メールアドレス: <a href="mailto:yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp/">yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp/</a> 研究室: 非常勤講師控室 /TEL:826-5344(長崎女子短期大学) /オフィスアワー:授業の前後(教室:メディアステーション)				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標(500文字) 授業のねらい:対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語(米語)-必要最低限の英語(米語)-を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。  授業方法:まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性(音法)について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、英語(米語)の運用能力を習得するトレーニングを行なっていく。尚、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事(ニュース)等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。  授業到達目標:本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であつたことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)(1300文字) 授業内容(概要) 前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性(音法)の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行なっていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。  第1回 オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか) 第2回 『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』—分析結果の報告と対策法について 第3回 母音、子音、調音点、閉鎖音についての解説/『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾン原則) 第4回 [t][d][g]の脱落/[t][d]のラ行音化/連結しない場合の[i]/[h]の脱落 第5回 『同化』を聞き取るパターン①(半母音[j]に絡む音変化) 第6回 『同化』を聞き取るパターン②([n]の後続音への影響) 第7回 [r]の発音/『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン 第8回 『閉鎖音の連続』を聞き取るパターン/『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン 第9回 On an Airplane(1) 第10回 On an Airplane(2) 第11回 At an Airport(1) 第12回 At an Airport(2)/VTR 視聴/ニュースを聞き取る 第13回 Taking a Taxi/VTR 視聴/洋楽を聞き取る 第14回 Taking Public Transportation/洋楽を聞き取る 第15回 全授業の総括(試験を含む)  ※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。				
キーワード	音法			
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング-聞き取るための入門講座(ハンドアウト教材) (2) American(ハンドアウト教材) (3) アメリカの生活と文化(VTR教材)			
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業への積極的参加意欲(受講態度やトレーニングの状況 20%)等の総合判定によって評価を行なう。			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ/学習・教育目標				
備考(準備学習等)	配布された教材に対する予習復習は必須である。力をつけたければこれを毎回確実に実践すること。			

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 火 7	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーションⅡ English Communication Ⅱ		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 夜間主コース	科目分類 外国語科目( 英語 )		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:白水桂子 /Eメールアドレス:kuwata@nagasaki-u.ac.jp /研究室:経済学部 /オフィスアワー:随時またはEメールで受け付けます。			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標(500文字)          授業のねらい:リスニング教材を使用し、聴解力の向上に努めます。また、対話や英文を理解するために必要な単語、表現、文法に関する知識を深めることを目指します。</p> <p>授業方法:事前に予習する箇所を指示します。授業ではリスニング、音読、対話の内容把握等を行います。適宜、テキスト以外の教材を配布します。</p> <p>授業到達目標:          リスニングや音読に慣れると共に語彙力及び表現力が向上すること。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)          授業内容(概要)          各ユニットのリスニングをする前に幾つかの単語の意味を確認します。リスニング後は内容把握の確認問題や音読、ディクテーションをします。</p> <p>英和辞書は必ず持参してください。</p> <p>第1回 オリエンテーション / Unit 1 Pardon Me?          第2回 Unit 2 A Bright Idea / Unit 3 Lucky You!          第3回 Unit 4 My Compliments to the Chef / Unit 5 Small Wonder!          第4回 Unit 6 Doggy Bag, Please / Unit 7 A "Day" to Remember          第5回 Unit 8 God Bless You! / Unit 9 It's the Thought That Counts          第6回 小テスト/ Unit 10 Bite the          第7回 Unit 11 "Oink, Oink" / Unit 12 Anywhere, But Here!          第8回 Unit 13 Mind Your Own Business! / Unit 14 Chicken!          第9回 Unit 15 The Easy Way Out / Unit 16 I Could Have Kicked Myself!          第10回 小テスト / Unit 17 Pinch Me          第11回 Unit 18 Size Matters / Unit 19 Thank Goodness          第12回 Unit 20 Same Difference / Unit 21 A Little White Lie          第13回 Unit 22 A Weighty Matter / Unit 23 Close Call!          第14回 Unit 24 Time Heals / 小テスト          第15回 全授業の総括(試験を含む)</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	Someya, Masakazu et al. <i>Humorous Homestay Stories</i> (リスニングで楽しむホームステイ体験記) (南雲堂)		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況等 50% 小テストや期末試験 50% を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 木6	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーションⅢ English Communication III		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 夜間主コース	科目分類	外国語科目( 英語 )	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:白水桂子 /Eメールアドレス:kuwata@nagasaki-u.ac.jp /研究室:経済学部 /オフィスアワー:随時またはEメールで受け付けます。			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標(500文字)          授業のねらい:英語の広告を題材にした文章で表現や単語を学習し、それぞれの広告の内容に関連した対話でリスニングの練習をします。文法事項も含めた総合的な基礎力の向上を目指します。</p> <p>授業方法:英文の広告を読み、単語の意味を英語による定義で確認します。対話のリスニングや音読、文法事項を確認する練習問題もします。</p> <p>授業到達目標:リスニングや音読に慣れること、及び英文を読む際に必要な基礎的文法事項の習得。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)(1300文字)          授業内容(概要)          英文読解や TOEIC 形式の練習問題、リスニングをします。事前に予習箇所を指示します。授業中は頻繁に指名するので、分からない単語や表現は調べて来て下さい。</p> <p>第1回 Slim Down, Shape Up!          第2回 A Healthier, Happier You!          第3回 Memories to Last a Lifetime          第4回 The House You Need—A Price You Can Afford          第5回 Moving? No Problem!          第6回 小テスト          第7回 Come See Our New Home!          第8回 Fantastic Furniture at Fantastic Prices          第9回 Shopping at Your Fingertips / Subscribe Now!          第10回 A Special Gift for that Special Someone / Leave It to the Experts!          第11回 Now Hiring!          第12回 Continue Your Education!          第13回 Let Us Give You the Perfect Holiday!          第14回 Just in Case          第15回 全授業の総括(試験を含む)</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	O'Brien, T. et al. <i>Catch Phrase - Everyday Advertisements in England</i> . (イギリスの広告で学ぶ基礎英語)(南雲堂)		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況等 50% 小テストや期末試験 50% を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 木 6	必修選択	必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーションⅢ English Communication III			
対象年次 2年次	講義形態 演習	教室		
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目(英語)			
担当教員: 丸山真純 /Eメールアドレス: masazumi@nagasaki-u.ac.jp/研究室: 東南アジア研究所 312/ オフィスアワー: 17:30-18:00, 19:30-20:00, Tuesday				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標				
<p>授業のねらい: 昨年と同様の教科書を用いながら、コミュニケーションのための英文法の理解に努める。英語を運用するには(話す、聞く、書く、読むに関わらず)、他の要素と合わせて、英文法の知識が不可欠です。本授業では、基礎的な英文法を確認しながら、英語による表現力の向上をねらう。</p> <p>教科書に基づきながら、解説をし、受講生には授業内外を通じ、練習(や練習問題)を行ってもらおう。毎回課題提出があり、数回の小テストを行う。こうした授業内外で英語に触れることによって、英語力向上をねらう。</p> <p>授業方法: 担当教員による基本的文法事項の講義・解説。演習問題などの演習。</p> <p>授業到達目標: 基本的文法事項の習得。</p>				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)				
<p>授業内容(概要)</p> <p>教科書に基づき、以下の文法事項に関する表現を習得し、実際に運用できるようにする。具体的な内容は以下の通り。</p> <p>第1回 Introduction (講義概要紹介)</p> <p>第2回 Lesson 13 One-Child Families</p> <p>第3回 進行形</p> <p>第4回 Lesson 14 Divorce</p> <p>第5回 未来時制</p> <p>第6回 Lesson 15 Humor <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小テスト①</span></p> <p>第7回 助動詞</p> <p>第8回 Lesson 3 Movies</p> <p>第9回 to 不定詞</p> <p>第10回 Lesson 4 Transportation <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小テスト②</span></p> <p>第11回 動名詞</p> <p>第12回 Lesson 9 Memorial Day</p> <p>第13回 受動態</p> <p>第14回 Lesson 18 Beverages</p> <p>第15回 仮定法 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小テスト③</span></p>				
キーワード				
教科書・教材・参考書	<i>Basically America, Basically Japan</i> by Charles L. Clark et al., NANUNDO.  (1年次と同じ)			
成績評価の方法・基準等	①課題提出(30%);②小テスト(60%);③出席・授業への積極的参加(Class Participation)(10%)から総合的に評価します。 (初回に詳しく説明します)			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ/学習・教育目標				
備考(準備学習等)	科目の性格上、全授業の1/3以上の欠席者には、単位が与えられない。 辞書は必ず毎回持参すること。			

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 水 7	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	総合英語 I Comprehensive English I		
対象年次 1 年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等)	夜間主コース	科目分類 外国語科目( 英語 )	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 前川 智子 /Eメールアドレス: t-mae@athena.ocn.ne.jp / 研究室:非常勤講師 /オフィスアワー:授業中及び授業の前後 10 分間			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 身近なトピック・テーマを扱いながら、総合的な英語力を高めることがねらいである。  授業方法: 授業時間を有効に利用するために、英文を読む・書くことは宿題とし、授業中はその宿題を元にもっぱら英語で話す・聞くというペア活動を行なう。毎週の課題を行った上で授業に望むことと積極的に英語で話すことが要求される。質問があれば授業中に遠慮なくして欲しい。  授業到達目標: 英語の基本構文(質問の仕方と答え方)を十分に理解し、自由に使えるようになる。 自分のこと(出身・仕事・趣味・旅行など)や家族のことを英語で詳しく書き、発表することが出来、更にそれについての会話を楽しむことが出来るようになる。更に、長崎原爆について英語で説明ができるようになる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 使用するテキストは、各章の初めに基本表現をマスターし、次にそれを応用して話し・聞く・書く・読む演習を重ねながら、徐々にその量を増やしていくように構成されているので、それに従って進めていく。今までに習得した英語力を活かし、また、語彙を増やしながら自由に英語で話し・聞き・書き・読めるようになるまで練習を重ねる。更に、原爆アニメ『アンジェラスの鐘』の英語字幕の英語表現も学ぶ。  第1回 Orientation / Lesson 1 (Nice to meet you) 第2回 自己紹介文(Writing 1) 発表 / <i>Nagasaki Angelus Bell 1</i> 第3回 Lesson 2 (Family) 第4回 自己紹介文(Writing 2) 発表 / <i>Nagasaki Angelus Bell 2</i> 第5回 Lesson 3 (Clubs and jobs) 第6回 自己紹介文(Writing 3) 発表 / <i>Nagasaki Angelus Bell 3</i> 第7回 Lesson 4 (Hobbies) 第8回 自己紹介文(Writing 4) 発表 / <i>Nagasaki Angelus Bell 4</i> 第9回 Lesson 5 (Traveling) 第10回 自己紹介文(Writing 5) 発表 / <i>Nagasaki Angelus Bell 5</i> 第11回 Lesson 6 (Food) 第12回 自己紹介文(Writing 6) 発表 / <i>Nagasaki Angelus Bell 6</i> 第13回 Lesson 7 (L1~6 の Review) 第14回 Review 第15回 授業の総括 (試験を含む)			
キーワード			
教科書・教材・参考書	「English Communication in the Classroom」(開文社出版) <i>Nagasaki Angelus Bell</i> 副読本		
成績評価の方法・基準等	試験(60%) 課題提出(20%) 宿題・授業中の活動(20%)		
受講要件(履修条件)	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。正当な理由があっても、欠席が4回以上となると定期試験を受ける資格を失う。30分以上の遅刻・早退は原則として欠席扱いとする。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	積極的に話を聞く・話す態度が身に付く		
備考(準備学習等)	毎回宿題(基本文型の暗記、スキットの音読、エッセイの読解問題、自己紹介文を書く・暗記する、映画のストーリーを英語で書く、等)を出すので、それを行った上で授業に臨むこと。		

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 木 7	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	総合英語Ⅲ Comprehensive English III		
対象年次 2年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類	外国語科目(英語)
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 山崎有介/ Eメールアドレス: pro-1223@ngs2.cncm.ne.jp/ 研究室:非常勤講師控室 / オフィスアワー:授業終了後			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: EFL(English as a Foreign Language)として英語を学ぶことを目的とし、多読と内容把握力のスキルアップをめざす。具体的には、語彙力・読解力・聴解力・作文力などTOEIC 対応も行う。 授業方法: トピックの内容についてまず日本語で考え、次に英語の質問に英語で答え、本文を読み、内容把握を行う。また、語彙力・聞き取り・要約作文を行う。 授業到達目標: 無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、英語における表現力を豊かにしたい。TOEIC や英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要)  第1回 Introduction Unit 1 Health and Disease 第2回 Chapter 1: The health of the world 第3回 Chapter 2: Health today Unit 2 Animals under Teat 第4回 Chapter 3: The world's animals 第5回 Chapter 4: Finding solution Unit 3 Food and Population 第6回 Chapter 5: Feeding the world 第7回 Chapter 6: Impacts of population change 第8回 中間のまとめ Unit 4 Poverty 第9回 Chapter 7: The causes of poverty 1 第10回 Chapter 8: The causes of poverty 2 第11回 Chapter 9: Tackling poverty Unit 5 Pollution 第12回 Chapter 10: A global problem 第13回 Chapter 11: Air and water pollution 第14回 Chapter 12: The debate over solutions 第15回 全授業の総括(試験を含む)			
キーワード			
教科書・教材・参考書	<i>Our Planet, Our Future</i> (松柏社)		
成績評価の方法・基準等	○定期試験 40%、中間試験 30%、小試験 15%、授業への姿勢(予習・発言・質問)15%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 木 6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	情報処理入門 Introduction to Computer Sciences		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義・演習	教室 メディアステーション1・2	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 情報処理科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 鈴木 斉/Eメールアドレ: sigh@nagasaki-u.ac.jp/研究室: 経済学部本館 321/TEL: 095-820-6372 /オフィスアワー: 講義時間終了後、および、sigh@nagasaki-u.ac.jpにて受け付けています。			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: コンピュータの操作を伴う演習を通し、機器の基本的な動作原理や特性について学習し、コンピュータの必要性の理解、および、専門課程での機器使用に対する準備を行う。 授業方法: 講義スタイルは第1回では座学、2~9回は演習を軸にコンピュータの基礎的な使い方の学習、第10回以降ではプログラミングの基礎的な考え方を通して情報処理技術の応用方法について学習します。 授業到達目標: 1) コンピュータを使用しレポートの作成、発表、および、提出が行えるようになる。 2) コンピュータの基本的な動作原理を説明できるようになる。 3) 情報倫理を学ぶことで、出来ることと実行しても良いこととの区別・判断をつけられるようになる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 第1回、および、14回の授業で情報倫理について学習、および、今までに習得した知識の整理を行い、第2回~9回ではコンピュータの基本的な操作方法の習熟が目的となります。 第10回以降の回ではコンピュータの動作原理や情報処理が可能となる原理について理解を深め、今後の専門課程での講義を受講する際にコンピュータを効率的に使うための方法について学びます。  第1回 ガイダンス(授業方法の説明)、セキュリティと情報倫理について学習します。 第2回 日本語入力、文書入力、電子メールの利用方法について演習を交えて学習します。 第3回 情報収集の方法について演習を交えて学習します。 第4回 Wordの使い方(文書編集・レイアウト変更・図表作成)について演習を交えて学習します。 第5回 Excelの使い方1(基本操作・各種計算)について演習を交えて学習します。 第6回 Excelの使い方2(関数・グラフ作成)について演習を交えて学習します。 第7回 PowerPointの使い方1(基本操作・画像加工)について演習を交えて学習します。 第8回 PowerPointの使い方2(アニメーション・プレゼンテーション)について演習を交えて学習します。 第9回 PowerPointの使い方3(発表練習)について演習を交えて学習します。 第10回 情報科学の進歩、および、コンピュータ発達の歴史について学習します。 第11回 コンピュータ内での情報の表現方法、アルゴリズム、プログラミングについて学習します。 第12回 2進数と論理演算、ハードウェア(論理回路の基本)について学習します。 第13回 2進数での計算方法について演習を交えて学習します。 第14回 情報化社会の課題、情報セキュリティの観点から情報倫理について学習します。 第15回 前授業の総括(試験を含む)			
キーワード	コンピュータ操作、ソフトウェア(Word, Excel, PowerPoint) 情報倫理		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しません。参考書は講義中に適宜紹介します。		
成績評価の方法・基準等	定期試験 30% (コンピュータの動作原理、情報を扱う上で必要となる倫理観等が実際に理解できているかを筆記式の試験で確認します)、 演習課題 60% (機器操作を伴う課題への取り組みや完成状況を基に判断します)、 授業に対する参加状況 10% (作業指示に従わない場合や演習の妨害行為等を減点対象とします)		
受講要件(履修条件)	特にありません。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	情報メディア基盤センターの端末を活用出来るようになる。また、専門課程での学習に役立てられるようコンピュータ関連の技術的な基礎、および、原理の概要を習得する。		
備考(準備学習等)	特にありませんが、コンピュータの操作に慣れていない場合は、毎日少しの時間でもキーボードに触れる時間をとることが望まれます。		

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 金 6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	健康・スポーツ科学 Science of Health and Sports		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 健康・スポーツ科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 中垣内真樹/Eメールアドレス: gaichi@nagasaki-u.ac.jp/研究室: 大学教育機能開発センター3F /TEL: 095-819-2089/オフィスアワー: 月、火、木曜日 12:00~12:50、16:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	管原正志、田井村明博、畑孝幸、西澤昭、山内正毅、中山雅雄、衛藤正雄、浦田秀子、青柳潔、中尾一彦、長谷敦子、有吉紅也、水野明夫		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 健康や身体運動に関する身体的、生理的特性、またはその社会的側面などについて理解を深め、実生活で役立つ知識の獲得をねらいとする。 授業方法: 授業で配布する資料を用いて健康や身体運動に関する基礎知識を講義形式で説明する。適時、身近なデータを用いた計算、分析、各自のライフスタイルなどの振り返りなどの演習もおこない実生活に役立つ知識も提供する。 授業到達目標: 生活習慣に関連する身体的・精神的疾病の基礎を説明できるようにする。生活習慣と健康、身体運動と健康の関連性を説明できるようにする。個々の生活習慣を振り返り、生活習慣を少しでも改善できるようにする。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 以下のテーマに従って健康や身体運動に関する身体的、生理的徳用またはその社会的側面などについて理解を深める。  第1回 管原正志: スポーツ活動と熱障害 第2回 田井村明博: 運動とエネルギー、運動と筋肉 第3回 中垣内真樹: 運動と健康 第4回 畑孝幸: スポーツと健康の関係の考察 第5回 西澤昭: リラクゼーションの方法 第6回 山内正毅: 運動学習の心理学 第7回 中山雅雄: トレーニング方法 第8回 衛藤正雄: スポーツ医学 第9回 浦田秀子: 成人病とライフスタイル I 第10回 青柳潔: 成人病とライフスタイル II 第11回 中尾一彦: 成人病とライフスタイル III 第12回 水野明夫: 歯と健康 第13回 有吉紅也: AIDS と感染症 第14回 長谷敦子: 救急法 第15回 総括			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付する。 参考書: 学生と健康 (編) 国立大学等保健管理施設協議会 南江堂		
成績評価の方法・基準等	レポートまたは小テストの合計 100% 毎回のテーマに関するレポートを総合して評価する。各週のレポートあるいは小テストは、10 点満点で評価し、15回の平均で評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 火・6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	社会と歴史(東洋社会経済史) Society and History (the Social and Economic History of Asia)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類	人文・社会科学科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 松本睦樹 /Eメールアドレス: mutuki@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 経済学部本館 5 階 /TEL:095-820-6358 /オフィスアワー: 毎週金曜 17:30-18:30			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500 文字)			
<p>授業のねらい: 一般に大学の教養科目として学ぶ「歴史」と言えば、日本史や西洋史、あるいは中国史であった。本講義ではそうではなく、インド史を取り上げる。その際、西洋を基準とする時代区分論を用いることの適否、西洋との接触、カーストなどの問題を中心に据える。この講義によって、地域が異なれば歴史像が根本的に異なるという事実を改めて学んでいただきたい。</p> <p>授業方法: まず教官が板書を活用した口述の講義を 60 分間行い、次に受講者がその内容を 60 分間でレポートにまとめ、最後に提出する、という独自の方法がとられている。</p> <p>授業到達目標: 歴史認識とは何かを理解し、その上でアジア史把握の視点をしっかり設定できること。</p>			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字)			
<p>概要 東洋の定義から始め、東洋におけるインドの位置づけを理解した上で、インド史の重要ないくつかの局面を項目別に学ぶ。なお、3 回の小テストのうち 2 回分は第 14 回までの講義に組み入れる。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 東洋とは 第3回 日本での「東洋史学」 第4回 歴史学と時代区分論 第5回 インドの地理と民族 第6回 カーストとは、 第7回 古代アリア社会 第8回 仏陀の時代 第9回 3つの統一王朝 第10回 「中世」の設定 第11回 ムスリムによる支配 第12回 ムガルの性格 第13回 ヨーロッパ人の見たインド 第14回 ヨーロッパ人のインド進出 第15回 まとめと小テスト</p>			
キーワード	東洋史、インド史、社会経済史		
教科書・教材・参考書	使用しない		
成績評価の方法・基準等	講義時間中に合わせて 3 回の小テストを実施する。そして、各自にとって最も成績の良かった小テスト 2 回を各 50 点 (合わせて 100 点) で採点し、各自の持ち点とする。その上で、欠席があればその分を持ち点から減点し、また毎回のレポートに特段の優劣があればその分の加点と減点も行われる。なお、定期試験は実施しないが、小テストを 3 回受験できなかった者に対しては追小テストを実施する。但し、出席すべき講義回数の 3 分の 2 以上を出席することが、単位認定の必要条件である。		
受講要件(履修条件)	世界史についての知識を有することが望ましいが、必要条件ではない。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	<p>(1) 第 1 回の講義では本講義に関してのルールや評定計算の詳細など重要な点を説明するので、注意すること。</p> <p>(2) 本講義では許容範囲を超えての遅刻は認めない。遅刻の許容範囲については、最初の講義時に受講者と相談の上で定める。</p> <p>(3) レポートについては、見本を配布する。</p> <p>(4) 回収したレポートは小テスト前に返却する。</p> <p>(5) テストは返却し、かつ採点のポイントなどを口頭で説明する。</p> <p>(6) 年度末の講義終了後は早めに評定結果を掲示し (希望者のみを対象とし、その履修番号と評定が記載)、かつ評定結果についての疑問などを受け付ける場を設ける。</p>		

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 金・7	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	経済と経営(経済学入門) / Economics and Business (Introduction to Economics)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:島田 章 /Eメールアドレス:shimada@net.nagasaki-u.ac.jp /研究室:経済学部本館2階 /TEL: /オフィスアワー:前期金曜日21時10分から21時30分			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標(500文字) 授業のねらい:経済学とはどのような学問であるかを理解させること。  授業方法:教科書にそった講義。  授業到達目標:経済学とはどのような学問であるか、マクロ経済学やミクロ経済学とはどのような学問であるかなどを理解すること。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)(1300文字) 授業内容(概要)初めに経済学とはどのような学問であるかを説明する。つぎにマクロ経済学の初歩的な内容を説明し、さらにミクロ経済学の初歩的な内容を説明する。  第1回 講義概要の説明 第2回 経済学とは何か[経済学は身近な学問] 第3回 経済学とは何か[経済学は実際の世界でどのように利用されているか] 第4回 経済学とは何か[経済学の思想はどのようにして発展してきたかー三つの論争ー] 第5回 経済を大づかみに捉えるとーマクロ経済学の基本ー[GDPを中心にマクロ経済を考える 1] 第6回 経済を大づかみに捉えるとーマクロ経済学の基本ー[GDPを中心にマクロ経済を考える 2] 第7回 経済を大づかみに捉えるとーマクロ経済学の基本ー[GDPを分解してみよう 1] 第8回 経済を大づかみに捉えるとーマクロ経済学の基本ー[GDPを分解してみよう 2] 第9回 経済を大づかみに捉えるとーマクロ経済学の基本ー[需要と供給で考える] 第10回 市場原理を理解するーミクロ経済学の基本ー[なぜ民営化、規制緩和をするのか? 1] 第11回 市場原理を理解するーミクロ経済学の基本ー[なぜ民営化、規制緩和をするのか? 2] 第12回 市場原理を理解するーミクロ経済学の基本ー[市場メカニズムを科学する 1] 第13回 市場原理を理解するーミクロ経済学の基本ー[市場メカニズムを科学する 2] 第14回 市場原理を理解するーミクロ経済学の基本ー[需要供給曲線を理解しよう 1] 第15回 市場原理を理解するーミクロ経済学の基本ー[需要供給曲線を理解しよう 2]			
キーワード	経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学、国内所得、物価水準、市場、需要、供給。		
教科書・教材・参考書	教科書:伊藤元重[著]『はじめての経済学(上)』(日経文庫、2004年)。		
成績評価の方法・基準等	期末試験 90%、授業への貢献度 10%。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	電子メールを送る場合は、かならず件名に「経済と経営(経済学入門)受講者の誰々(送信者名)用件は何々」と書いてください。		

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 木 7	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間の科学(人の一生) /Human Sciences (Human life; from birth to death)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:篠原一之 / Eメールアドレス:kazuyuki@nagasaki-u.ac.jp / 研究室:医学部第二生理学(基礎研究棟 3F) / TEL:095-819-7035 / オフィスアワー:16時30分~17時00分			
担当教員(オムニバス科目等)	北島道夫、大石和代、中尾優子、西谷正太、土居裕和、松本正、岡田雅彦、花田裕子、井上統夫、崎浜教之、北岡隆、森望、鮎瀬卓郎		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 人の一生に関し、人体の構造や機能の変化を含め、様々な角度から解説を試み、誕生から死に至る過程を科学的に理解させ、ひいては「人間という生物」の総合的理解を深める事を目的とする。  授業方法: スライドあるいは板書による講義を行う。 *必要に応じて、プリント・資料等を配布する。視聴覚教材も利用する。  授業到達目標: 人の一生には、どのようなライフイベントがあり、それは生物としての私たち人間の体のどのような構造あるいは機能を起源とするかを学習し、人間科学の基礎知識を養うことを到達目標とする。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 基礎医学(神経科学、脳形態学)、保健科学(母子看護学、助産学)、臨床医学(産科婦人科学、小児科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、歯科学)といった多角的な観点から、人の一生に迫る。また、人の一生に含まれるライフイベントは、私たち人間の体のどのような仕組みによって行われているかを学習し、生体の構造に関する基礎知識を養う。 第1回 4月10日 『生殖』 (医学部産婦人科・助教: 北島 道夫) 第2回 4月17日 『胎児』 (医学部第二生理学・教授: 篠原 一之) 第3回 4月24日 『出産前-妊娠・出産と母親・父親になること』 (医学部保健学科・教授: 大石 和代) 第4回 5月01日 『出産後』 (医学部保健学科・准教授: 中尾 優子) 第5回 5月08日 『乳幼児①』 (医学部第二生理学・助教: 西谷 正太) 第6回 5月15日 『乳幼児②』 (医学部第二生理学・助教: 土居 裕和) 第7回 5月22日 『小児-人間の多様性』 (医学部保健学科・教授: 松本 正) 第8回 5月29日 『学童』 (医学部小児科・講師: 岡田 雅彦) 第9回 6月05日 『子どもの心と発達』 (医学部保健学科・教授: 花田 裕子) 第10回 6月12日 『思春期』 (医学部産婦人科・助教: 井上 統夫) 第11回 6月19日 『大人』 (医学部耳鼻科・講師: 崎浜 教之) 第12回 6月26日 『目組織の発達と老化』 (医学部眼科・教授: 北岡 隆) 第13回 7月03日 『老化①』 (医学部第一解剖・教授: 森 望) 第14回 7月10日 『老化②』 (歯学部歯科麻酔科・准教授: 鮎瀬 卓郎) 第15回 7月17日 全授業の総括(試験含む)			
キーワード	基礎医学、保健科学、臨床医学、発達、老化、ライフサイクル		
教科書・教材・参考書	必要に応じて、プリント・資料等を配布する。 視聴覚教材も利用する。		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況(20%)と定期試験(80%)の結果を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 水曜日・6校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	数理科学(経営科学入門) Mathematical Science(Introduction to Management Science)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 自然科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 丸山幸宏 /Eメールアドレス:maruyama@nagasakli-u.ac.jp /研究室: 経済学部本館 307号室 /TEL:095-820-6344 /オフィスアワー:水曜日・7校時			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 企業における生産活動、販売活動、投資意思決定など様々な意思決定に関連する分野に応用されている経営科学の基礎理論について学ぶ。  授業方法: 経営科学における様々な解法を用いて現実問題の解を発見する方法を様々な演習問題を通じて学ぶ。  授業到達目標: 経営科学の様々な手法の基礎概念を理解する。さらに各手法を用いて、基本的なモデルの解を求めることができるようになる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 経営科学の手法のうち、線形計画法、動的計画法、日程計画法、ゲームの理論の基本的な概念や解法について習得する。  第1回 ガイダンス -オペレーションズリサーチとは- 第2回 線形計画問題とは 第3回 線形計画問題の解法-図式解法- 第4回 線形計画問題の解法-その2- 第5回 輸送計画問題の解法 第6回 動的計画法による最短経路問題の解法 第7回 巡回セールスマン問題 第8回 資源配分問題 第9回 ゲームの理論入門 第10回 ゲームの値と最適戦略 第11回 混合戦略 第12回 日程計画とは 第13回 クリティカルパスの発見 第14回 クリティカルパスの改善 第15回 授業の総括(試験含む)			
キーワード	オペレーションズ・リサーチ、線形計画法、動的計画法、ゲームの理論、日程計画		
教科書・教材・参考書	適宜プリントを配布 参考書:「ORのはなし-経営意思決定のテクニク-」大村 平著、日科技連		
成績評価の方法・基準等	定期試験 80% レポート 20%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 火 6	必修選択	必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーション I English Communication I			
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室 メディアステーション		
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目(英語)			
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 担当教員: 吉村 宗司 / E メールアドレス: <a href="mailto:yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp">yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp</a> / 研究室: 非常勤講師控室 / TEL: 826-5344(長崎女子短期大学) /オフィシアワー: 授業の前後(教室:メディアステーション)				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法) /授業到達目標 授業のねらい: 対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語(米語)-必要最低限の英語(米語)-を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。  授業方法: まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声の特徴や法則性(音法)について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、英語(米語)の運用能力を習得するトレーニングを行なっていく。尚、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事(ニュース)等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。  授業到達目標: 本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であつたことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。				
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声の特徴と法則性(音法)の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行なっていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。  第1回 オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか) 第2回 『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』—分析結果の報告と対策法について 第3回 母音、子音、調音点、閉鎖音についての解説 / 『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則) 第4回 [j][d][g]の脱落 / [t][d]のラ行音化 / 連結しない場合の [j] / [h]の脱落 第5回 『同化』を聞き取るパターン①(半母音[j]に絡む音変化) 第6回 『同化』を聞き取るパターン②([n]の後続音への影響) 第7回 [r]の発音 / 『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン 第8回 『閉鎖音の連続』を聞き取るパターン / 『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン 第9回 On an Airplane(1) 第10回 On an Airplane(2) 第11回 At an Airport(1) 第12回 At an Airport(2) / VTR 視聴 / ニュースを聞き取る 第13回 Taking a Taxi / VTR 視聴 / 洋楽を聞き取る 第14回 Taking Public Transportation / 洋楽を聞き取る 第15回 全授業の総括(試験を含む)  ※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。				
キーワード	音法			
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング-聞き取るための入門講座(ハンドアウト教材) (2) American(ハンドアウト教材) (3) アメリカの生活と文化(VTR 教材)			
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業への積極的参加意欲(受講態度やトレーニングの状況 20%)等の総合判定によって評価を行なう。			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ / 学習・教育目標				
備考(準備学習等)	配布された教材に対する予習復習は必須である。力をつけたければこれを毎回確実に実践すること。			

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 火 6	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーションⅡ English Communication II		
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目(英語)		
担当教員: 丸山真純 /Eメールアドレス: masazumi@nagasaki-u.ac.jp/研究室: 東南アジア研究所 312/ オフィスアワー: 17:30-18:00, 19:30-20:00, Tuesday			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>授業のねらい: リーディングを中心としながら、英語運用能力の涵養に努める。教科書は世界の英語をめぐるさまざまなエッセーが中心となっている。こうしたエッセーを読みながら、構文・語彙にも注意を払い、私たちと英語の関わりについても理解を深めていきたい。</p> <p>授業方法: 教科書に依拠しながら、担当者による補足説明や解説を中心とする。受講生には授業内外を通じ、練習(や練習問題)を行ってもらおう。毎回課題提出があり、数回の小テストを行う。こうした授業内外で英語に触れることによって、英語力向上をねらう。</p> <p>授業到達目標: 英語運用能力の向上(特に、読解力、構文力、語彙力)。世界の英語事情についての理解を深める。</p>			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>授業内容(概要)</p> <p>本学期は、世界の中の「英語」について、教科書に依拠しながら、理解に努める。具体的な内容は以下の通り:</p> <p>第1回 Introduction (講義概要紹介)</p> <p>第2回 Chapter 1 New Englishes</p> <p>第3回 Englishes という考え方</p> <p>第4回 Chapter 2 English in ASEAN</p> <p>第5回 地域統合と英語</p> <p>第6回 Chapter 4 English and Volunteerism 小テスト①</p> <p>第7回 ボランティアと英語</p> <p>第8回 Chapter 5 English in America</p> <p>第9回 アメリカの英語事情</p> <p>第10回 Chapter 6 Australia 小テスト②</p> <p>第11回 オーストラリアと英語</p> <p>第12回 Chapter 7 British Literature</p> <p>第13回 英文学と英語: 不思議の国のアリス Alice's Adventures in Wonderland</p> <p>第14回 Chapter 8 Bible</p> <p>第15回 聖書を英語で読む 小テスト③</p> <p>扱う Chapter は変更する可能性がある。 教科書の扱わなかった Chapters は、2年次に扱う(2つの学期で一冊の教科書を終える)。</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	Textbook: <i>The Bridges of English Language Across the World: International &amp; Multicultural Perspectives Book 1.</i> Yuko TAKESHITA, et al., Shouhakusha. 参考書: 『世界は英語をどう使っているか』 竹下裕子・石川卓(編著)、新曜社。		
成績評価の方法・基準等	①課題提出(30%);②小テスト(60%);③出席・授業への積極的参加(Class Participation)(10%)から総合的に評価します。(初回に詳しく説明します)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	科目の性格上、全授業の1/3以上の欠席者には、単位が与えられない。辞書は必ず毎回持参すること。		

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 水 7	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	総合英語 II Comprehensive English II		
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類	外国語科目(英語)
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 山崎有介 / Eメールアドレス: pro-1223@ngs2.cncm.ne.jp / 研究室: 非常勤講師控室 / オフィスアワー: 授業終了後			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: The New York Times から The Japan Times に至る英文による新聞記事を読み、英文読解力を養う。 Reading, Listening, Vocabulary の総合的実力向上を目指す。</p> <p>授業方法: Questions, words and Phrases, Summary により、本文を読む前の内容予想をしながら読解力を深める。</p> <p>授業到達目標: 無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、英語における表現力を豊かにしたい。TOEIC や英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>社会・文化・映画・政治経済・情報・言語・教育・科学・環境・娯楽・スポーツなどのさまざまな分野を通し、多角的に英語運用力を高めていく。理解度をチェックするために、Multiple Choice, True or False, Vocabulary を通して読解力と語法・語彙を養う。</p> <p>第1回 Introduction 第2回 Unit 1: Ninomiya anything but cute idol in 'Letters' 第3回 Unit 2: Education gets outsourced-India's outline tutors teaching American kids 第4回 Unit 3: Lethal cocktail of vodka and poverty claims thousands 第5回 Unit 4: AFTER SUDOKU, WHAT'S NEXT? 第6回 Unit 5: Wireless Technology Speeds Health Services in Rwanda 第7回 Unit 6: China orchestrates a renaissance 第8回 中間のまとめ 第9回 Unit 7: The EU turns 50 - but do its members feel 'European'? 第10回 Unit 8: DEEP IMPACT'S FINAL HURRAH 第11回 Unit 9: Updating on Old Way to Leave the Baby on the Doorstep 第12回 Unit 10: Classic U.S. boondoggle in the making: INFATUATION WITH BIOFUELS 第13回 Unit 11: Doctors Fault Designers' Stance Over Thin Models 第14回 Unit 12: Vote Makes It Official: Pluto Isn't What It Used to be 第15回 全授業の総括(試験を含む)</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	<i>The Half-Edition of English through the News Media</i> (Asahi Press)		
成績評価の方法・基準等	○定期試験 40%、中間試験 30%、小試験 15%、授業への姿勢(予習・発言・質問)15%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 月 6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	言語と芸術 (日本の言語) Language and Art (Japanese Language)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:池田 幸恵 /Eメールアドレス: yu-ikeda@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 環境科学部 412 /TEL: 819-2738 /オフィスアワー: 木曜日・4校時			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法 (学習指導法) /授業到達目標  授業のねらい:現代日本語に興味を持ち、日本語に関する理解を深める。  授業方法:毎回、出欠確認票兼質問用紙を配り、次週その質問に答える形で、講義を進める。視聴覚教材を使用する場合もある。  授業到達目標:敬語の正用・誤用が分かる。正しい日本語表記ができる。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要)  現代日本語に関する諸問題について、敬語・方言・表記などのテーマごとに考察する。  第1回 オリエンテーション 第2回 敬語に関する世論調査(1) 第3回 敬語に関する世論調査(2) 第4回 敬語の誤用 第5回 敬語のまとめ 第6回 方言(1) 方言の歴史 第7回 方言(2) 方言周囲論 第8回 方言(3) 方言と共通語 第9回 方言(4) 長崎県の方言 第10回 方言(5) 方言研究の現状 第11回 日本語表記の諸問題(1) 現代仮名遣 第12回 日本語表記の諸問題(2) ローマ字表記 第13回 現代語の諸問題(1) 若者言葉 第14回 現代語の諸問題(2) 外来語 第15回 まとめ			
キーワード	日本語 敬語 方言		
教科書・教材・参考書	プリントを配布		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的参加状況 30% 定期試験 70%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 水曜日 6校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	法と政治(企業活動と法)/ Law and Politics (Business Laws)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部・夜間主コース	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:岡本芳太郎 /Eメールアドレス:yokamoto@nagasaki-u.ac.jp /研究室:経済学部本館6階 607 号室 /TEL:095-822-6329 (内線 329) /オフィスアワー: 授業終了後。事前に予約してもらえれば、その他の時間も対応します。			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 現代社会における経済活動の大部分を担っている企業の組織や活動を規律する法についての基礎的な理解を得る。 授業方法: 授業計画に沿ったプリント資料を配布し、講義形式で行うが、随時小テストを実施する。テキストは補充的に使用する。 授業到達目標: 新聞等で報じられる企業活動に関連する簡単な法律問題について理解し、他人に説明できるようにすることを目標とする。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 企業に関連する法令のうち、企業組織及び企業取引(競争の規制を含む)に関する主要な法制を概観する。 第1回 法とは何か。・・・社会における法の役割、法源、実定法の種類、法の解釈等 第2回 契約の自由・・・契約の締結、種類、違反等についての基礎知識 第3回 企業取引・・・商行為における特則、商取引における固有の契約類型等 第4回 債権回収・・・担保物権、保全処分その他の債権回収の手続き 第5回 不法行為・・・不法行為の概念と種々の類型、救済 第6回 会社の種類と株式会社の設立 第7回 株式会社の運営と組織・・・株式会社の株主総会、役員等の機関の種類、役割、責任 第8回 株式と会社の計算・・・株式の種類と発行手続き、企業活動状況の開示 第9回 会社の倒産・・・会社の倒産時における再建型及び清算型の処理の手続き 第10回 私的独占と不当な取引制限・・・独占禁止法の概要と事例 第11回 特許と営業秘密・・・技術情報の保護に関する法律の概観 第12回 ブランド・著作権・意匠権・・・ブランド、デザイン、著作物等の創作者の保護に関する法制の概観 第13回 国際取引・国際訴訟・・・国際企業取引における法律上の諸問題 第14回 紛争処理と刑事裁判・・・民事裁判、ADR等の紛争処理と刑事犯に関する法制 第15回 全授業の総括(試験を含む)			
キーワード			
教科書・教材・参考書	「ビジネス法務の基礎知識」山川一陽・根田正樹 弘文堂 平成 18 年 9 月		
成績評価の方法・基準等	定期試験 70%、授業への貢献度 15%、小テスト 15%。		
受講要件(履修条件)	特になし。		
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 金曜 6限	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名) 日本国憲法	日本国憲法(個人と国家) The Constitution of Japan (Constitutional Law of Japan)		
対象年次 1	講義形態	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部・夜間主コース	科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: <b>井田洋子</b> /Eメールアドレス:smile@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 経済学部本館209 /オフィスアワー: 木曜日 17:00~1900			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500文字)</p> <p>授業のねらい:日本国憲法を持つ普遍的原理としての、基本的人権の尊重・国民主権・権力分立・違憲立法審査制といった規定と、独自の価値としての、戦争放棄及び象徴天皇制についてそれぞれ他国の憲法と比較しながら考察を行う。そうした考察を通じて、現日本国憲法の存在意義について改めて確認する。</p> <p>授業方法:講義形式。</p> <p>授業到達目標:受講生が①憲法の存在を身近なものとして捉えること、②さまざまな憲法問題を自身問題として考えること、③現在の憲法改正論議に対して主権者として主体的に関わろうとする意識を喚起すること、の3点を目指す。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300文字)</p> <p>授業内容(概要)、</p> <p>まず最初に、憲法を学ぶ上で欠かせない、国家、基本的人権、国民主権、民主主義等の基本概念を一通り説明する。その後、人権問題、国家権力を巡る問題、戦争放棄を巡る問題等、多岐にわたる問題の中から、毎回ひとつずつテーマを選定、そのテーマに関して、国内外の具体的な事例を用いながら、考察を深めていく。</p> <p>第1回 憲法とはなにか、基本概念の説明—法治国家・基本的人権・国民主権・民主主義等  第2回 日本国憲法制定過程  第3回 象徴天皇制  第4回 法の下での平等1 国民主権と選挙制度  第5回 法の下での平等2 男女平等  第6回 信教の自由  第7回 表現の自由1  第8回 表現の自由2  第9回 表現の自由3  第10回 人身の自由  第11回 社会権  第12回 国家権力の構造1 立法権と行政権  第13回 国家権力の構造2 司法権  第14回 戦争放棄  第15回 憲法改正</p>			
キーワード	個人・国家・民主主義		
教科書・教材・参考書	大隈義和・大江正昭編『憲法学へのいざない』青林書院。 『ポケット六法』有斐閣、『コンパクト六法』岩波書店等、いずれかの六法書。		
成績評価の方法・基準等	レポート 30%、定期試験 70%の総合評価。なお、出席率が低い場合は、定期試験受験資格を失うものとする。		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2008 学期 後期	曜日・校時	金 7	必修選択	選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と文化(生命倫理学の諸問題) Humanity and Culture (Problems of Bioethics)				
対象年次	1・2年	講義形態	講義	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部・夜間主コース		科目分類	人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	担当教員: 林 大悟 / Eメールアドレス: daigochan@jcom.home.ne.jp / 研究室: /TEL: /オフィスアワー: 講義の行なわれる日(後期の毎週金曜日)午後 6 時 30 分から 7 時まで、非常勤講師室にて				
担当教員(オムニバス科目等)					
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500 文字)					
<p>授業のねらい:</p> <p>現代社会では、安楽死、人工妊娠中絶、臓器移植などを巡る倫理的な問題が数多く存在する。これらは我々自身の生命に関わることであり、根元的な意味で自由・権利・規範等に関わる問題でもある。このような生命倫理学の具体的な諸問題について考察し、我々の社会のよりよいあり方を考えると同時に論理的な思考を習得する。</p> <p>授業方法:</p> <p>ビデオ鑑賞をもとに問題点を取り上げ、それに対する様々な見解を紹介し検討する。可能であればディスカッションを行う。講義毎に、講義内容に対する意見・質問・感想等を書いてもらい、それについてコメントする。</p> <p>授業到達目標:</p> <p>様々な見解を検討し、それを踏まえた上で自分自身の意見を持ち、それを根拠付ける能力を身につける。</p>					
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字)					
<p>授業内容 (概要)</p> <p>安楽死、インフォームド・コンセント、人工妊娠中絶、臓器移植などの生命倫理学のテーマについて何が問題になっているかを明らかにし、それぞれについての様々な見解を紹介する。それらを吟味した上で、各人の見解とその根拠「なぜそう言えるか」を提示してもらおう。教員はあくまでも中立的な立場に立つので、学生は自分自身の意見をはっきりと持ってもらいたい。生命倫理学のテーマについて考えると同時に、倫理学の基本的なテーマである「自由」「権利と義務」「法と倫理」などについても論じる。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 生命倫理学とはなにか?</p> <p>第3回 安楽死 新たな死のかたち 安楽死と尊厳死</p> <p>第4回 歴史的背景、権利とは何か?</p> <p>第5回 安楽死制度を認めるべきか?</p> <p>第6回 終末医療とホスピスケア</p> <p>第7回 インフォームド・コンセント 医療における患者の自由の獲得</p> <p>第8回 インフォームド・コンセントとパートナーリズム</p> <p>第9回 がん告知、輸血拒否の問題をどう考えるか?</p> <p>第10回 人工妊娠中絶 中絶に関する日本の現状</p> <p>第11回 中絶賛成か中絶反対か?</p> <p>第12回 中絶擁護論の検討</p> <p>第13回 脳死と臓器移植 脳死という新たな死</p> <p>第14回 臓器不足を以下に解消するか?</p> <p>第15回 授業の総括(試験含む)</p>					
キーワード					
教科書・教材・参考書	参考書: 『倫理学を始めよう—論理学からおむつ体験まで』、波多江忠彦監修、木星舎				
成績評価の方法・基準等	講義に対する積極的な取り組み状況(配点 10%)と学期末試験(持ち込み可)(配点 90%)で評価する。				
受講要件(履修条件)	受け身の講義ではなく、意見・感想等を積極的交わす講義を目指します。皆さんの自由に活発な発言を期待します。考えることの好きな人々大歓迎です。				
本科目の位置づけ/学習・教育目標					
備考(準備学習等)					

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 木曜・7校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と環境(生活微生物学) / Human and Environment (Microbiology in our daily life)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 笠間憲太郎 / Eメールアドレス: kasama@net.nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 水産学部微生物学研究室 / TEL: 819-2847 / オフィスアワー: 講義の前後			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標  授業のねらい: 我々の日常生活と関連深い微生物についての知識を広める。  授業方法: パワーポイントを用いて、講義形式で行う。  授業到達目標: 微生物に関わる発酵食品, 薬品, 廃水処理, 病気などの知識を修得し, その理屈を説明出来るように成る。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 我々の生活と深く関わっている微生物について広く講義する。  第1回 微生物の研究の歴史, 種類, 性状などの基礎的な事項の説明 第2回 細菌とは 第3回 カビ, 酵母, ウィルスとは 第4回 地球上における微生物の分布 第5回 食品の微生物-1 第6回 食品の微生物-2 第7回 発酵食品-1 第8回 発酵食品-2 第9回 食中毒細菌 第10回 衣類, 住居と微生物 第11回 環境浄化と微生物 第12回 かわりものの微生物 第13回 微生物の利用(食品以外)-1 第14回 微生物の利用(食品以外)-2 第15回 まとめ			
キーワード	微生物, 日常生活, 食中毒, 微生物の利用		
教科書・教材・参考書	パワーポイントを用いて講義するが, 必要に応じてプリントを配付する。		
成績評価の方法・基準等	定期考査, 70点; 授業中の課題に対する積極的な取組状況, 30点		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 木曜・6校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	化学の基礎(物質とエネルギー) / Introduction to Chemistry (Relationship between Materials and Energy)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類 自然科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 田辺 秀二 /Eメールアドレス:s-tanabe@nagasaki-u.ac.jp /研究室:工学部材料工学科(総合教育研究棟 7F 709号室) /TEL:095-819-2659 /オフィスアワー:月曜日 18:00~19:00(毎週)			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 物質の構成要素である分子の結合エネルギーから、化学反応における反応熱の意味を考え、さらに、反応熱からいろいろな熱力学的な状態変数を導くことで、化学反応の熱力学的な考察を行う。 授業方法: 講義形式で行う。教科書は用いず、適宜プリントを配布する。講義の内容をまとめ、講義ノートを作成する。  授業到達目標: 原子、分子の構造から化学結合の種類を理解し説明できる。結合エネルギーと反応熱の仕組みを理解し説明できる。化学反応における活性化エネルギーを理解し、説明できる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 原子の構造、電子配置から、分子の構造、化学結合について講義する。化学反応の仕組みを講義したあと、反応熱について説明する。反応熱の熱力学的な意味を考察する。さらに、反応速度的な観点から、活性化エネルギーを説明する。  第 1回 オリエンテーション 第 2回 原子の構造 第 3回 電子配置と周期律 第 4回 分子の構造と分子軌道 第 5回 化学結合:共有結合 第 6回 化学結合:イオン結合と金属結合 第 7回 化学反応 第 8回 反応熱と結合エネルギー 第 9回 ヘスの法則 第10回 エンタルピー変化とエントロピー 第11回 自由エネルギーの意味と計算方法 第12回 化学平衡 第13回 反応と反応速度 第14回 反応速度と活性化エネルギー 第15回 講義のまとめ(試験を含む)			
キーワード	化学結合、反応熱、エンタルピー		
教科書・教材・参考書	参考書: ・アトキンス物理化学第6版(上・下)東京化学同人 ・入門化学熱力学 山口喬著 培風館 ・基礎化学結合論 小林常利著 培風館		
成績評価の方法・基準等	成績は最終試験のみで評価する。最終試験で60%以上の得点を合格とする。		
受講要件(履修条件)	なし 欠席の取り扱いは全学教育の規程に従う。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	高校の化学の内容を復習しておくこと。		

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 火・7	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	経営・会計入門 Introduction to Management and Accounting		
対象年次 1~4 年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー <b>岡田裕正</b> /Eメールアドレス:h-okada@nagasaki-u.ac.jp /研究室:経済学部東南アジア研究所 307 /TEL:820-6352 /オフィスアワー:授業終了後 30 分程度			
担当教員(オムニバス科目等)	岡田裕正、林徹、菅家正瑞、宇田川元一、阿部智和、杉原敏夫、神郡克彦、丸山幸宏、小野哲、近藤隆史、立山柚彦、上野透		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>授業のねらい: 現代の企業経営を知る上で不可欠な経営活動の諸側面を中心に、それらを分析するときの主要な視点や関連知識を修得することをねらいとする。</p> <p>授業方法: 教員によるオムニバス形式による講義である。なお、教員によっては質疑応答の時間を設けることもある。</p> <p>授業到達目標: 上記の講義のねらいに示した現代の企業活動についての分析視点と基礎的知識を、説明できることを目標とする。</p>			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>授業内容(概要): 企業活動の中心となる経営および会計という活動、企業を支える情報システム、企業そのものについて、毎回完結する形で、講義をする。第2回~第7回は、企業経営の諸側面について講義する。第9回~第12回は会計および意思決定を対象とした内容である。第13回と第14回は企業そのものを対象とした講義である。</p> <p>第1回 イントロダクション(岡田) 本講義の趣旨、講義の構成などについて説明する。</p> <p>第2回 経営学総論(林) 邦訳F・テイラー『科学的管理法』の一部を引用して紹介し、古典を直接読むことの意義を伝える。</p> <p>第3回 経営管理(菅家) 経営管理とは何かについて概説する。</p> <p>第4回 経営戦略(宇田川) 戦略とは何か、戦略はなぜ必要か、身近な例を用いて考えていく。</p> <p>第5回 経営組織(阿部) 受講者にとって身近な実例を交えて組織論の基本概念を説明する。とりわけ、モチベーションとリーダーシップに焦点を当てる予定である。</p> <p>第6回 マーケティング(神郡) マーケティングの4p(Product(製品)、Price(価格)、Place(場、ディストリビューション)、Promotion(販売促進))を中心に、業界の変化を把握する。</p> <p>第7回 経営情報システム(杉原) 経営活動において、今日のIT化に代表される情報システムが果たした役割とインパクトを概観する。</p> <p>第8回 前半の総括(試験を含む)</p> <p>第9回 意思決定(丸山) 科学的な意思決定の手法である、階層分析法(AHP)について概説する。</p> <p>第10回 財務会計(岡田) 企業会計制度の概要、企業経営や社会における会計の役割などについて概説する。</p> <p>第11回 管理会計(小野) 管理会計の内容を概観した後、管理会計が企業経営のどのような側面について役立つかに、例を交えながら説明する。</p> <p>第12回 原価計算(近藤)</p> <p>第13回 企業論(立山) 企業論全般の問題に触れるとともに、とくに食品の偽装表示などで注目されている企業の社会的責任、内外の業界再編を主導する企業のM&amp;Aなどについて取り上げる。</p> <p>第14回 中小企業論(上野) 中小企業の日本経済における役割や特徴、内外の環境変化への対応に係る課題などについて概説する。</p> <p>第15回 全授業の総括(試験を含む)</p> <p>オムニバス講義のため、授業の順番等について変更することがある。 オフィスアワーを授業終了後に 30 分設ける。</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	使用しない。教員によっては資料を配布することがある。		
成績評価の方法・基準等	中間テスト(50%)と期末テスト(50%)による。ただし、授業に対する積極的な取組みを、試験を受ける条件とする。 試験では、各講義で学んだ企業活動の分析視点・基礎知識の習得状況を見ることを主眼とする。		
受講要件(履修条件)	特になし。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	経営や会計の基礎知識を学ぶことで、2 年次生以降の専門教育を受けるときの橋渡しとして位置づける。		
備考(準備学習等)	毎回の講義内容に関する質問については各教員が対応するので、なるべく講義中または講義直後にすること。		